

学 校 別 力 目 ・ 標 教 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	教職員アンケート「校内研究やOJT等の校内での支援体制のもと、やりがいをもって働くことができる職場環境になっている。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した教職員の割合	4:90%以上	3	○教職員アンケートの結果(肯定的評価)は88.6%であった。校内研究の授業づくりやOJT等の校内研修活動がこの結果につながっていると考える。 ○ゲストティーチャーを招いたり、地域への校外学習に行ったりして、地域の特色を生かし、社会とのつながりのある教育活動を展開したこともこの結果につながっていると考える。 ●「職員の業務適正化等」に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。』の肯定的評価は59.1%であった。学校を取り巻く環境等に大きな変化がない状況で、約6割が肯定的評価ができていることは改善が図られているとも考えられるが、すべての教職員が、自分の職務にやりがいを感じ、児童に向き合う時間を確保することができるように以下のように改善する。①学年単位での指導協力を充実し、教材準備や事故対応などの負担感を軽減させていく②学校支援人材の有効活用により「教師でなくてもできる仕事」の分担を軽減していく。③会議の精選やタイムマネジメントの徹底により学校運営業務の効率化を図る。	A	6	○下記の項目を含めて皆様大変ご尽力いただいている事、日々感じております。ただ、やることが多すぎて全体的に回っていない状況を感じてしまっています。 ○先生方が学校にとられる時間が多すぎると思います。私生活を充実させ、そのことを児童生徒に語ってほしい。 ○教職員の方に会うと必ず挨拶をいただきます。 ○③については、学校や教員単位での取り組みだけで改善することには限界があると感じる。国の施策や国民の教育そのものに対する理解が必要である(自論ですが) ○制約がある中で、学校教員としてはこまやかに対応していると思います。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:80%以上			B	4	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	1		2:70%以上			C	1	
						1:70%未満			D		
た 自 個 め の 目 標 5 を い き 支 援 し き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「一人一人の子どもを大切にしながら指導している。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した保護者の割合	4:90%以上	4	○保護者アンケートの結果(肯定的評価)は、90%であった。以下の3点がこの結果につながっていると考える。①特別支援教育の専門家から、特別な支援を必要とする児童の特性、対応の仕方、教育上の指針となる研修を実施して、日々の指導に生かした。②毎週の生活指導夕食会において、いじめや不登校、問題行動に関する情報共有を行い、未然防止、早期発見、早期対応ができるよう組織的な対応を行った。③問題行動、不登校児童、医療的ケア等に関するケース会議設け、関係諸機関と対応を図った。 ●教職員アンケート「学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。』の肯定的評価が100%であったが、今後とも教職員が些細ないじめの兆候も見逃さず、いじめを認知した場合、すぐにいじめ防止対策委員会を開き、組織的な対応をし、全ての児童が安心して学校生活を送れるよう引き続き、支援する。 ●インクルーシブ教育システムの構築に向けて、巡回指導教員を中心に、児童・保護者等を対象とした、障害特性等にかかわる啓発活動を行っていく。	A	10	○自分らしさを発見することはまだ先でもと感じる。いろいろな体験をもって将来に備えてください。 ○ステップアップルームを状況に合わせて運営する工夫が見られました。 ○いじめをしてしまう側のケアについても難しい問題だと感じます。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上			B		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:70%以上			C	1	
						1:70%未満			D		
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 習 く 空 間 と す 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「学校は、安全教育(不審者対応・交通安全・避難訓練等)に努めている。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した保護者の割合	4:90%以上	4	○保護者アンケートの結果(肯定的評価)は91.3%であった。以下の取組がこの結果につながっていると考える。①毎月の安全指導日には、担当学年が全校放送で安全指導を行って安全な行動を定着するように取り組んだ。②毎月の避難訓練を加えて大森第六中学校を2次避難場所として全校児童が移動した。 ●教職員アンケート「学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。』の肯定的評価は、86.3%であった。一方で、否定的評価が13.7%あることは、安全・防災等の地域活用を意識する機会のない教員もいるということが考えられる。より多くの教員が地域安全マップづくりなどの地域を教材とした学習活動や、地域防災訓練にかかわる機会を設け、安心・安全な学校づくりを推進していく。	A	9	○小池は恵まれた環境にあると思います。これは、大人になってからわかったことで、柔軟な考えができるようになってほしい。 ○ICT環境についてはより積極的に進めてほしい。 ○大田区避難場所への移動訓練はとてもよい取り組みだと思います。(無責任な意見ですが)高学年であれば、3次避難場所である多摩川まで遠足などの行事として徒歩でいくのも面白いと思います。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:80%以上			B	2	
						2:70%以上			C		
						1:70%未満			D		
学 地 学 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 ク ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「保護者や地域と連携しながら教育活動を進め、開かれた学校とする努力をしている。」で「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した保護者の割合	4:90%以上	4	○保護者アンケートの結果(肯定的評価)は93.2%であった。以下の2点がこの結果につながっていると考える。①学校のHPについては、月に1回更新を行い、学校だよりや教育活動の様子について発信を行った。また、まなびがけのチャンネル機能を活用し、各学級から学校の様子を知らせることができた。さらに、学校から発信する配布物等については、電子配布の定着が図れた。②学校地域支援本部を有効活用して、各学年で校外学習の保護者ボランティアやゲストティーチャー等の協力をいただくことができた。 ●教職員アンケート「登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。』の肯定的評価は100%であった。今後は、児童の安全面だけでなく、児童の学習活動や家庭教育講座等、様々な機会地域と学校ができる取組を充実させていく。	A	10	○この地域は優秀な保護者の方々がいます。児童生徒とのふれあいで大人も成長したい。 ○全体として先生方お忙しい中よく頑張ってくださいと思っています。 ○地域を巻き込んだコミュニティ作りの姿勢、働かせが見られました。 ○保護者アンケートの結果通りであると思う。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上			B	1	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:70%以上			C		
						1:70%未満			D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す